

病院が考える地域医療連携 — あきた病院の現状 —

和田千鶴[†]2021年10月23日～
11月20日 Web開催

IRYO Vol. 77 No. 2 (81-85) 2023

要旨

国立病院機構あきた病院（当院）は340床を有し、一般地域医療のほか、重症心身障害者、神経筋難病患者を対象にセーフティーネット医療を提供している。また、障害福祉関係事業として、移行期から成人対象に、医療型短期入所、療養介護を行っている県内唯一の医療機関である。他の医療機関からの紹介件数は約220件/年、うち入院約20件/年、逆紹介は261件/年である。また、障害者歯科治療も積極的に行っており県内各地からご紹介いただいている。秋田県は、知的障害児者の50%以上が重症であり、かつ、高齢化が進んでおり、当院の重症心身障害患者も同様である。高齢化にともない合併症の併発も増加し他科との連携も必要な状況であるが、一方で、本人の意思決定支援に多職種で関わることも重要である。当院では地域の自立支援協議会施設部会への参加・情報共有、秋田県立医療療育センターと協力し在宅障害児向け研修・講演、筋ジス協会と連携し県内在住の筋ジス患者の訪問検診など行い患者確保にも努めている。一方で、人材確保・育成として保育士養成大学実習生、医学生や研修医、看護学生、リハビリテーション学生の積極的な受け入れにより、この分野の医療に興味と理解を得るよう各部署が努力している。また、神経筋難病に関しては、当院は新たな難病医療提供体制で分野別拠点病院（神経筋分野）に指定され、秋田県難病連絡協議会にて所属関係機関とさらなる地域医療連携をとる基盤づくりや難病患者相談会などを通して地域の関係者との連携をはかっている。今回、療養介護事業対象者基準が拡大し、療養介護対象となる神経筋難病患者も増加傾向にあるが、個々の患者をとりまく地域や多職種関係者との連携をはかりながら、適切な障害福祉サービスを提供する体制をさらに整備していきたい。

キーワード 地域医療連携, 障害福祉サービス, 神経筋難病, 重症心身障害

はじめに

今回のシンポジウムでは、‘病院が考える地域医療連携’というテーマをいただき、国立病院機構あきた病院（当院）での地域医療連携とそれに関連する障害福祉サービスについて現状を報告した。‘地

域医療連携’の目的は、各医療機関が地域の実情に応じて各々の医療の専門性を活かし、地域の患者が適切な医療を継続して受けられるようにすることである。国は、地域の実情に応じた難病医療提供体制の構築について2018年度から新たに整備を進めており¹⁾、一方で、障害者については重度化・高齢化を

国立病院機構あきた病院 脳神経内科, †医師

著者連絡先：和田千鶴 国立病院機構あきた病院 副院長 〒018-1393 秋田県由利本荘市岩城内道川字井戸ノ沢84-40

e-mail : wada.chizu.bt@mail.hosp.go.jp

(2022年3月15日受付, 2022年12月2日受理)

Regional Medical Cooperation : at NHO Akita National Hospital

Chizu Wada, NHO Akita National Hospital

(Received Mar. 15, 2022, Accepted Dec. 2, 2022)

Key Words : regional medical cooperation, disability welfare services, intractable neuromuscular disease, severe motor and intellectual disability